

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2871101388		
法人名	医療法人 尚和会		
事業所名	グループホーム ケアホーム宝塚		
所在地	(〒 665-0047) 兵庫県宝塚市亀井町10-51		
	電話	0797-71-2828	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年4月14日

【情報提供票より】 [平成 21年 2月23日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計 9人)		
職員数	8人	(常勤 8人) (非常勤 0人)	/ 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	地上 5階建て建物の1階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	136,500円	その他の経費(月額)	27,300円	
敷金の有・無	有り (350,000円) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (円)	無し	有り ・ 無し	
食 材 料 費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日あたり		1,500円	

(4) 利用者の概要 (平成21年2月23日 現在)

利用者人数	計9名 … (男性2名) (女性7名)		
要介護1	2名	要介護2	4名
要介護3	1名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年 齢	平均86歳 … (最低 82歳) (最高 92歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人尚和会 宝塚第一病院
---------	----------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護老人保健施設、通所リハビリテーション、居宅介護支援事業所を隣接しており、緊急時の医療対応はもちろん、ケアの質を向上へ向け、職員は看護・介護知識や理学療法等の専門知識を医師、看護師、理学療法士に随時に仰いでおり、家族も心強い(安心できる)。リハビリフロアー、トロン温泉、機械浴の利用のほか、法人(尚和会)として実施する各種のクラブ活動にも利用者が自由に参加できるようにするなど楽しみ事の機会作りにも努めている。家族も交えた関係作りを大切に、家族の演奏によるコンサートも利用者や家族と一緒にイベントとして恒例行事になった。職員の教育研修も充実しており、いろいろな面で向上心が感じられるホームである。◎参考までに、前回・前々回の評価時の資料写真を添付

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①広域自治会長の運営推進会議への参加は継続されており、今後地域包括センターにも参加を依頼する予定。②同業者連絡会の発足は、近いところから始めていく予定。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価は、一年の振り返りとして職員全員で行い、それを管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 会議は、2ヵ月ごとに開催され、利用者、家族、自治会長、市役所職員、市立病院看護副部長、職員が参加している。会議ではホームの近況報告のほか、地域情報の交換がなされている。討議をきっかけに、地域の協力のもと、「認知症サポーター研修」も開催できた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 毎月「ケアホーム通信」を発行し、利用者の近況を報告している。家族の訪問は多く、訪問時には細かな報告をしている。家族が意見を言いやすい雰囲気作りも心掛けている。聴き取った意見や苦情は、職員会議や随時のカンファレンスにおいて検討され、全職員が情報を共有し、ホーム運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域自治会の賛助会員になり、地域活動に積極的に参加し、研修やボランティアも数多く受け入れている。幼稚園や小学校の招待で、地域行事にも積極的に参加している。尚和会全体の取り組みとしても、老人会の依頼で「健康講座」の講師を務めたり、「町の保健室」を開設するなど、地域還元にも努めている。

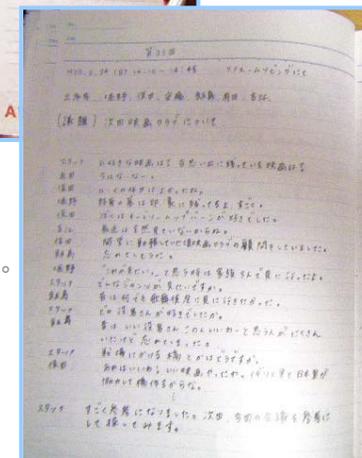
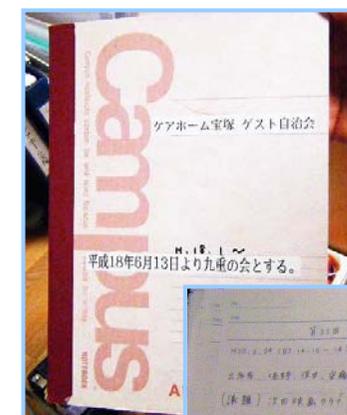
◎居心地よく過ごせる居室の配慮
入居者の馴染みの物を部屋に持ち込み…



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援
入居者家族による、心温まる演奏会

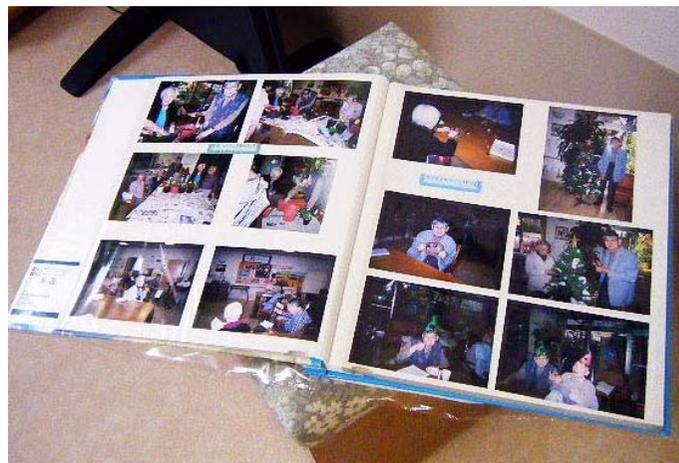


◎食事を楽しむ支援 ◎社会的生活の支援



“入居者の自治会”
「九重の会」のノートに
行事の立案などの
意見をまとめてゆく。

◎家族等への報告
入居者の部屋に1冊ずつアルバムを用意し、
家族の訪問時には一緒に見てもらっている…



◎楽しみごとの支援 ◎生活環境づくり
入居者の作品を飾り、共用スペースの雰囲気作りを…



施設内のコンクールで“金賞”



皆でランチパーティーの準備を…



ホームベーカリーで
手作りパンも…



▲併設のトロン温泉



▲作品（施設の作品展で「金賞」）



▲皆でおやつ(この日は「たこ焼き」)を作って楽しむ＝協働



▲リハビリ庭園



2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「であい、ふれあい、えがおの輪」を理念とし、「一人ひとりの生き方、その人らしさを尊重し、地域住民と共にパートナーとして支援する」を基本方針としている。一人ひとりの個性を尊重しながら、地域とも積極的な交流を図り、その人らしい暮らしを支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念、基本方針に基づいた年間目標を策定し、ステーション内に掲示して周知を図ると共に、各職員は、その達成に向けた個人目標を設定し、日々取り組んでいる。そのケア体制は、家族にも周知されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の賛助会員となり、積極的に地域活動に参加し、幼稚園・小学校行事の招待もある。老人クラブ等の依頼で「健康講座」の講師や、「トライやるウィーク」や小学校の「新任者研修」の受け入れ、「認知症サポーター養成講座」を行い、知識を地域に還元することにも努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価制度の必要性や意義については、職員へはケアホーム会議、家族へは家族会において説明し、周知・理解を図っている。また評価結果は、職員、家族、運営推進会議メンバー等に配布し、関係者と共有して、サービスの向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、利用者、家族、自治会長、市役所職員、市立病院看護副部長、職員参加のもと、2か月に1回開催し、ホームの近況報告のほか、地域情報の交換を行い、行政、地域との連携を強化し、サービス向上に取り組んでいる。	○	地域包括センター職員にも出席と協力を願ひ(介護保険制度の知識や権利擁護等の学習会の開催)、連携をとりながら、より質の向上に向けた取り組みを願ひたい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修・行事へ積極的に参加している。宝塚市介護相談員が毎月来所し、ホームの活動状況や行事などの視察をし、その際、職員との意見交換を行い、質の向上に活かしている。職員の一人が介護認定審査会の役員として審査会へ参加したり、介護保険運営協議会へも出席し、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「ケアホーム通信」を発行し、日々の様子や職員の異動などを伝えるほか、各居室に個人アルバムを用意し、行事や日常生活での様子を保存し、家族の訪問時に見てもらっている。家族の訪問も多く、受け持ち職員を中心として、細かな報告がなされている。	○	家族への報告用に運営推進会議の議事録を作成し、家族の訪問時に見て頂いたり、また、家族に送付をするなど検討してみてもどうか。家族が運営推進会議の内容を知ること、地域密着型サービスの趣旨の家族への理解も更に深まると考えられる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口の広報のほか、意見箱も設置している。ホーム全体で意見を言いやすい雰囲気作りに務めており、家族訪問時や家族会で意見や苦情を伺い、出された要望は、会議等で話し合わせ、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に留め、利用者との馴染みの関係を築けるよう「受け持ち制」にしている。異動等やむを得ない場合も、認知症ケアに適した人選を考慮している。異動時は、利用者へのリスクが生じないように、職員の重複体制を取る配慮を行なっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の新人研修を始め、現場において、個人対応を基本としたOJTがなされている。全ての職員は個別目標を設定し、複合施設を活かした内部研修のほか、外部研修にも積極的に参加できるしくみで、質の向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列ホームとの勉強会や、介護職員対象の研修会、介護専門員研修、連絡会、市社会福祉協議会主催の研修会に参加し、交流を図っている。	○	さらなるケアの質の向上へ向け、系列外のホームとも相互見学の機会を作り、そのホーム毎で工夫されている点も視察させて頂くなど、検討してみてもどうか。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談時には利用者・家族の不安や希望を聴く時間をしっかり持ち、担当の職員が中心となり、家族の協力も得ながら、他利用者との交流を図り、少しずつ馴染めるように工夫している。		
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	「パートナーとして支援する」ことを基本方針とし、職員は「利用者は人生の大先輩であり、尊敬の念を持ち、常に学ぶ姿勢を持って対応する」と心得て、ケアにあっている。職員と利用者の支え合いのみならず、利用者同士の支え合う関係が構築されている。訪問時においてもそれが視察できた。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ち担当職員を決め、その利用者に継続的に関わることで、本人や家族の希望が表出しやすくなる様に努めており、困難な場合は、出来る限り本人本位に検討されている。また、ホーム独自で利用者アンケートも行っている。	○	会話ノートを活用し、より一層、利用者の意向を汲み取る工夫を行なっていく、本人本意の介護計画の作成の参考にして頂きたい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、主治医、受け持ち職員、看護師、ケアマネージャーなどが、身体的・精神的・社会的視点から意見交換を行い、その人らしく暮らす為の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヵ月毎に、変化が生じた場合には随時に、関係者とカンファレンスを行い、思いや意向を反映した計画を作成している。より一層のケアの充実を図るため、計画書の様式変更を検討中である。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設を利用し、各種クラブ活動への参加や、リハビリフロア、トロン温泉、リハビリ庭園の散歩など、QOLの向上に活かしている。訪問理美容も利用している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	介護老人保健施設が併設されており、施設内常駐の医師・看護師を含め、かかりつけ医との情報交換や連携を図っている。緊急時の協力病院の受け入れ体制も整備されている。日々の記録も、医師の診察時に利用者の現状把握がしやすいように工夫されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての方針を明確にマニュアル化し、職員間で共有すると共に、本人や家族の意向を踏まえながら、病状を共有し、個別に対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時のオリエンテーション、OJTを通して、利用者の尊厳やプライバシーに配慮した言葉掛けや対応について研修を行ない、これを徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者と共に過ごす時間を持ち、生活パターンの把握や、希望を汲み取れるように努めている。利用者の要望に速やかに対応出来るよう、職員間で協力し合い、「個別」の支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者でつくる自治会(九重の会)で、一人ひとりが意見を出し何が食べたいかを決めている。日々、食事の準備から後片付けまで、それぞれの利用者に役割があり、全員が楽しみながら参加している。毎日のメニューを利用者の記入で掲示し、嚥下体操を行い、食事を楽しむ工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態や希望にあわせ、時間帯や回数を決めているが、希望があればいつでも入浴可能である。併設施設のトロン温泉の利用や季節湯を行うことで、入浴を楽しむ工夫を行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの日常的な役割を持ってもらい、日々の生活の中で輝けるよう支援している。クラブ活動も盛んであり、利用者それぞれの楽しみごとの支援をしている。家族と一緒に料理を作ってランチをする企画も実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域行事の参加やホーム行事のほか、利用者の希望に添って、近隣の散歩や施設のシャトルバスを利用し、外食やドライブ、買い物などを行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束を広義に捉え、言語や行動制限なども含め、鍵をかけることの弊害を職員全員が共有し、取り組んでいる。日中は施錠せず、併設施設にも自由に行き来できるようにしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、年2回利用者と共に消防訓練を実施している。地域住民には、行事や研修会の際に協力を得られるよう、呼びかけを行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取状況を、毎日チェック表に記録し、把握している。個別の摂取状態や嚥下状態を把握し、食べやすい食事形態を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からはリハビリ庭園が見渡せ、四季折々の花が咲き、利用者と共に、花や野菜を植え、収穫を楽しんでいる。リビングの壁面には協働作品が貼られ、季節に応じたお雛様なども飾られ、落ち着いた雰囲気作りをしている。微温湯での嗽の励行や手洗いの徹底をはじめ、共有部分での空調の整備は、室温（部屋の換気）や湿度の管理（濡れタオルの設置）をして、空気感染の予防策をとっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者各々は使い慣れた家具や馴染みの調度品を持ち込むなどしており、ホームとして利用者が心を落ち着け暮らせるよう工夫している。居室それぞれに、“生け花クラブ”の作品（利用者自身の作品）が飾られていた。		

※  は、重点項目。